

# ▶ 中村不折生誕150年記念イベント一覽 ◀

2016年は中村不折生誕150年。伊那市では年間を通じて様々な不折関連イベントを企画しています。

2/13  
(土)  
※お正月

14:00～ 長野県伊那文化会館

中村不折生誕150年イベント講演会  
「生誕150年 中村不折入門」

～画家・書家・コレクターなど、多彩な活躍の全貌をたどる～  
講師：長野県立歴史館 学芸員 林 誠 氏

料金：無料／問い合わせ：0265-73-8822

新宿中村屋でも!

3/25(金)  
～6/19(日)

9:00～17:00 高遠町歴史博物館

特別展「中村不折 生誕150年『己を広げ 己を高め』」  
収蔵作品と、台東区立書道博物館所有の写真などを展示します。

料金：大人400円・小人200円／問い合わせ：0265-94-4444

4/30(水)  
～7/24(日)

中村屋サロン  
美術館

生誕150年記念  
企画展「中村不折」

7月中旬  
～10月

10:00～17:00 伊那市創造館

企画展「不折・子規・漱石、『猫』を巡る明治の文人たち」(仮称)  
挿絵画家・装丁家・デザイナーとしての不折に焦点を当て、明治期の文人  
たちに思いをさせます。

料金：大人200円・小中学生100円／問い合わせ：0265-72-6220

問い合わせ：03-5362-7508

8/4  
(木)

13:30～15:00 伊那市生涯学習センター

不折生誕150年記念講演会  
「不折、そして子規と漱石」  
講師：SBCラジオ 堀井 正子 氏

料金：無料／問い合わせ：0265-78-5801

書道博物館でも!

6/10(金)  
～9/4(日)

台東区立  
書道博物館

生誕150年記念  
「中村不折展」

9/17(土)  
～10/30(日)

9:00～17:00 信州高遠美術館

生誕150年記念  
「中村不折展」

料金：大人500円・小人150円／問い合わせ：0265-94-3666

問い合わせ：03-3872-2645

10/15(土)  
～11/13(日)

9:00～17:00 長野県伊那文化会館

中村不折生誕150年記念  
「わたしたちのコレクション展」(市内に眠る不折作品を展示)

料金：大人500円・高校生以下無料／問い合わせ：0265-73-8822

通年

10:00 高遠町  
～20:00 図書館

サロン不折  
(関連資料を展示)

問い合わせ：0265-94-3698


10:00  
～19:00 伊那図書館

中村不折  
(所蔵資料の展示)

問い合わせ：0265-73-2222

中村不折生誕150年  
信州 伊那 高遠  
伊那市合併10周年

不折



1866 → 2016  
150th birth anniversary of Fusetsu Nakamura

なかむら ふせつ

# 中村不折ってどんな人？

みなさんも「新宿中村屋」や、「真澄」などのお店の名前のロゴを、テレビのCMや広告などで見かけたことがあるかもしれません。そのロゴの元になった書を書いたのが、中村不折という人で、伊那にもゆかりのある人です。

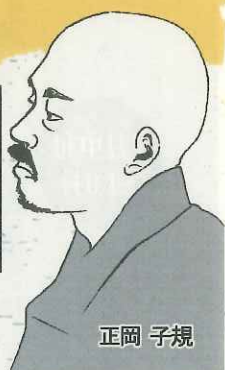


- ① 不折は江戸時代が終わるころに、当時の東京で生まれました。明治時代になって、母のふるさとの高遠へ移ったのを始まりにして、その後も住む土地を変えながら、少年時代を過ごしました。子どものころから絵が好きで、おもちゃのかわりに、役者の絵などが描かれた色あざやかな木版画を買ってもらい、宝物にしていました。貧しい暮らしだったため、着物屋などで働きながら、好きだった勉強や絵に使う時間を自分で作っていました。

- ② 勉強の道に行くか、絵の道に行くかで迷っていた不折でしたが、20歳の時、画家になる決心をし、そのために東京へ行くことを決めました。働きながらお金をためて、23歳で東京へ行き、絵の修業にはげみました。

- ③ 東京で暮らし始めてからは、お金をかせぐために、絵の修業の間にいろいろな絵の仕事をしましたが、生活は変わらず苦しいままでした。そんな時、不折は新聞のさし絵を描く仕事を任されました。この時、同じ新聞の仕事をしていた人の中には、俳人の正岡子規もいました。不折は後にこの仕事から、夏目漱石や森鷗外などの文学者とも親しくなり、「吾輩は猫である」などの今でもなじみのある物語のさし絵も頼まれました。

柿食えば  
鐘が鳴るなり  
法隆寺



夏目 漱石



フランスへ行く前の不折  
(36歳)→

- ④ 明治27年に日清戦争が始まってからは、不折は戦地の中国へ行き、そこで中国の文化や景色にふれて、たくさんの経験をして帰ってきました。それからは、絵の勉強のためにヨーロッパへ留学することを決め、そのために、また働きながらお金をためて、フランスへ留学しました。不折はそこで「歴史画」という、歴史の物語をテーマにした絵を描いていたジャン＝ポール・ローランスなどに絵の教えを受けました。絵の勉強が一通り終わると、書がもともと好きだった不折は、書を書くことにも時間を使うようになりました。



- ⑤ 日本に帰った不折は、今までしてきた絵の勉強を生かして、歴史画を描くようになりました。そして、書を書くことも両立して、絵と書のそれぞれの道で高く評価される芸術家になりました。年をとってからの不折は、新しい芸術家を育てるための教育者としても活躍しました。そして、71歳の時には、「芸術は、いろいろな人に見てもらえるように広く公開されなければいけない」という信念を持って、自分が集めた書道関係の資料などを展示した「書道博物館」を東京に設立しました。不折は昭和18年に78歳で亡くなりましたが、今でもいろいろな形で、わたしたちの身近に生き続けています。

